

西南学院小学校 学校長メッセージ

「学校通信 Wings 2025年5月号」



隣人を自分のように愛しなさい。(マルコによる福音書 12章31節)

一年生入学直後の4日間に、保護者チャペルが今年度も行われました。

西南学院小学校で過ごすにあたって、学校が大切にしていることを分かっていたらと始めた保護者チャペルでしたが、今年度は保護者の皆様に、子どもたちと同じようにすべてチャペルの形式を守って行いました。お話しした内容を一部抜粋して紹介させていただきます。

1 日目は私から。

神様に愛され高価で尊いと言われている私たちは、神様が願う歩みをするために、「深く考える」「自分を大切に、自分を大切にするように周りの人を敬い大切にすること」を大事に。子どもは周りの大人から学ぶ・大人を見て学ぶと言われている。愛に溢れた賢い優しい人に育つよう、そして日々子どもたちが愛されていることを実感できるように「ことば」と「行動」で伝えていきましょう。

【礼拝後のお知らせ】学校は小さな社会であると考えている。一年生は特に言葉で伝えることが十分にできず、行き違いが起こりやすい。帰宅後何か心配なことがあればすぐ担任に連絡を。担任は、必ず両者の話を聴いて指導に当たる。保護者の方が解決しようとして、直接相手の方に連絡しない。常に冷静に対応することを大切に。また担任は、失敗したこと・間違っていることについては、叱り指導をすることがあるが、人格を傷つけるようなことはしないということを知っていて欲しい。基本的な生活習慣を身につけるには、一年生の今が一番大切。

2 日目は、賛美歌について音楽科の麦野教諭からのお話と賛美指導、そして3 日目は、栄養教諭の松村教諭・カウンセラーの嶋本教諭・図書館司書の西田教諭から。

松村教諭からは、朝ごはんを抜いてしまうとランチを食べるまでエネルギーが不足。朝ごはんを食べられるような状況・時間・内臓の具合を日々整えてあげて欲しい。不足しがちな栄養素を毎日コツコツ取るのに良いと思われる食材の紹介。(資料1:4 ページ目)

カウンセラーからは、「保護者の方ご自身も自分はげましセット」を用意するなどして、サポートする側が心身に少しでも余裕がもてるよう、意識して息抜きやリフレッシュをすることで、子どもへのかかわりにもいい循環が生まれるなど。

司書の西田教諭からは、「親はこどもに愛情を示すことができる。一日たった15分でも時間を与えることで。その時間とは、一緒に本を読み、繋がり合う時間である。」

4 日目は、聖書科の松藤教諭から。

イースターを前に、十字架やイエス様の紹介。そして、「神様は、新しく、よしやるぞというすべての人を〈喜んで〉〈さあ、いってらっしゃい〉と新しい役に立つ人間として用いてくださる方。『恐れてはならない。私はあなたとともにいる。驚いてはならない。私はあなたの神である。私はあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手を持って、あなたを支える。』(イザヤ書41章10節)大丈夫という漢字を思い浮かべると大丈夫には、人が3人隠れている。人が繋がり合って「ともに生きる」とき、そこに大丈夫が起こる。「ともに生きる」大丈夫の環境をみんなで繋がり合って支え、祈り合って作っていきましょう。

また、次のページに載せているお手紙と絵は、保護者チャペルで私が話した次の日に、にこにこ笑顔とともに1年生の男の子がプレゼントしてくれたものです。保護者の方が大事なことをお子様にもすぐにお話して下さったのだなあということがよく分かり、とても嬉しくなりました。チャペルの様子もよく描けています。しっかり観ていることも分かります。私と思われる人物の特徴をよく掴んでいます。「いいにくいことを言う」校長の辛さを分かってくれていることにも胸が、きゅんとします。

(2025年度学校通信一年生特別号から抜粋)

小学校の玄関横に植えられた「アンネのばら」が、今たいへん美しく咲いています。

西南学院小学校に贈られたバラの花の
ことをご存知でしょうか。玄関横に咲いて
いるのですが、『平和を願ってアンネの
バラ』という立て看板に、気づいた方も
いらっしやるかと思います。このバラの花は、
愛と平和のシンボルとされています。
第二次世界大戦中にアンネという少女が
綴った日記のことは多くの方がご存じだ
と思います。その日記に感銘を受けたベルギー
の園芸家が、平和への願いを込めて 新種
のバラをつくり、家族でただ一人生き残った
アンネのお父さんに贈られたのだそうです。
その後『アンネのバラ』は、「アンネの形見」



と命名され、世界へ広がっていきました。心から自由を愛していたアンネは、15歳でこの世を去りました。戦争と人種差別が、彼女から、自由と輝く未来、そして尊い命をも奪い取ってしまったのです。アンネのお父さんは、アンネや家族を失った悲しみの中で、こんな悲しいことが二度と起こらないよう、世界の人々に平和の大切さを伝えること(アンネの仕事)を誓い、その働きに一生を捧げられたということです。『アンネの仕事』をアンネのお父さんから引き継いだ中のお一人が 西南学院小学校に来校され、「ぜひ、西南学院の子どもたちに、世界に平和をつくっていくための『アンネの仕事』を引き継いで欲しい。」と言われました。その際、贈ってくださったのが、玄関横に植えられた『アンネのバラ』です。この活動は、世界中にアンネの平和と自由を願う祈りに共感した人々によって広がっているのだそうです。

子どもたちの未来が希望と喜びで満ちたものとなるよう、そして平和な世界となるよう祈り、自分自身が平和をつくるのだという思いを枯らさないようにしていけることを願っています。

アンネのバラは一年に何度か花が咲きますので、来校の際に気をつけてご覧になってみてください。

(2023 年度学校通信 5 月号から抜粋)

(文責 黒木佐幸)